
恋文

遠野ましろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋文

【Nコード】

N0021S

【作者名】

遠野ましろ

【あらすじ】

某島大賞の手紙部門に応募したら著にも棒にもかからずだったが、友人は結構泣いてくれた。さて。あなたはどうぞでしょう。

前略

運命は奇跡の積み重ねで成り立っていて、それは偶然などでは無い。

あなたと出逢い、初めてそれを知りました。

第一印象は、ヘタレ、頼りないヤサ男、出来ない子、そんな印象。恋愛対象からは完全に除外。

一変したのは仲間内で出かけた先。テニスをする姿を見たとき。

お遊びなんだから適当にやればいいものを、転んでも食らいつく懸命さにずきゅん、来ました。なんだこれ。どきつとしたよな、私。

ビジュアル草食系のくせに滅茶苦茶上手い。フォーム綺麗、努力の人だ絶対。脳内テニプリ再生。すね毛の濃さにも萌えました。

もしかしたらこれが、恋だったのかもしれない。

初めて二人で飲みに行った、水曜日の夜。覚えてますか？

言いだしっぺというのに、私は居眠りする始末。業務多忙で息抜きしたいのは山々、けど正直へつとへとで。

気付けば頬杖ついて、かくん。手首返して腕時計を見る。アレ・

キュイジー又ったの21時。60分経過、シェフなら制限時間終了。

寝ぼけ眼に注がれる、強い目線。

正面でカシスウーロンちびちび飲みながら、あなたはじっと見ていた。料理はかなり、残ってた。

も、申し訳無い。頭を下げる私。

「疲れてんだよ。気にすんな」

ふはっ、とくしゃり崩し笑い、目尻に入る数本の皺。見つめる瞳の優しい色。ぼやけた視界、鮮明に焼き付きました。

それから、早速その週末お誘いかけるってどういうことですか。

土曜は友達と遊ぶと聞けば「なら車持ってるし、送るよ。暇だし。日曜は空いてる？　じゃ、会おっか」

うちまで三時間かけて車でやってきて。そこから更に一時間『私
が他の子と会うのを見送る』それだけのために。翌日も送迎。往復
八時間×二日間のアッシーもどき。

あなた、私のことどれだけ好きだったんですか。

正直に言ってご覧なさいよ。悪いようにはしませんから。

んで別れて帰宅して速攻電話で告るって、どんだけ抑え効かなかったんですか。

言いましたよね、私。告白されてホイホイ付き合う軽い女などでは無い。あなたのことをよく知らないし、会う機会も多いし今後別れたら気まずいから、友達でいいよ別に。問題ある？

——知らないなら、これから知ればいい。

友達関係だけじゃ分らない、付き合わなきゃ見えないことだってある。

違うっ！　そういう意味じゃなくて。望まない限り手は出さない。誓う。

で、浅い友達続けたとして、きみは僕に見せれる？　心ん中全部なんでもいい、思ってること吐けよ。こないだみたく寝ててもいい。しっかしあれは、……ぶっ。ぶはっ。えと、真面目な話。ごほん。

僕は、受け止めたい。

そういう関係が恋人だと思うんだけど、試してみればいいじゃん。

駄目ならそんなときは仕方ない。諦めよっか。

きみは僕を知らない。

僕はきみを知りたい。

結果がどうなるかなんて、やってみなきゃ何事も分かんないよ？

ひよつとしたら僕のこと、僕がきみに惚れてる以上に好きになる
かもしれないよ。

あなたのように何時間もかけて真摯に交渉する人だらけならば、
日本経済はもつと豊かになることでしょう。

しかし、ここまで惚れ込むとは。まさか、結婚にまで至るとは、
想定外。あの日のあなたに白旗を上げています。

今に至る全ての日々が、私の宝。

初めてデートした場所でプロポーズされて。指輪を通す手がこま
かく震えていたこと。

味噌汁の具が小さい言われて「豆腐の大きさがなんぼのもんじゃ
ー」大喧嘩したこと。

伸びた髭でじよりじより頬擦りつけてきやがって、「痛いっつー
の、やめれ」でも結局キスハグ。風邪を私に移して治すな、毎度毎
度。

要するに、あなたは私と似ています。

馬鹿で一生懸命で必死で、かつこ悪いこともいとわない。本気で
ぶつかる、でメゲる。挙句恐ろしく頑固。全くめんどくさい性格。

が、徹底的に違う点が、ひとつ。

あなたは、育った家庭を誇りに思っています。一切、悪く言った

ことが無い。尊厳と信頼とあたたかい愛情に満ちている。

「親父とまじ似てんだよなー、じーちゃんも。会ったらびっくりすると思う」

「母さん？ そっ言うけど、んな美人じゃないよ」

大好きな家族に話が及ぶといつも、につっこく。気付いてましたか？

同年代の輩は、母親をばあ呼ばわりする、存在を軽視するのがファッショナブルな風潮。私といえば、決して心を開いているとは言えない環境。

だから尚更、新鮮に映りました。

付き合いだての頃。結婚して奥さんになったら、あんな表情で『家内は』とか言ってくれんだな、なんて妄想までしてました。

人を大切に思い過ぎる故、一人抱え込み、己を責めるのはあなたの悪い癖です。もっと誰かをなじって下さい。

そんなあなたが心と体を患ったのに直ぐ気付かなかったのは、私の人生最大の過失です。

ですが私は、贖罪のためではなく。あなたと自分のために、選びます。

見守ることを。この手で、幸せにしてやることを。

あなたのような人と共に生きることは、私の誇りであり、喜びです。

あなたと結婚する時、私は生涯かけて向き合い、愛しぬくと心に誓いました。

世間が後ろ指差すような行為をしたとしても、私だけは味方でありよう。

あなたの最大の理解者であり、相棒。世界でたった一つの存在になろうと。

私那不慮の事故に遭わない限り、死後の世界に旅立つのはあなたが先となるかと思っています。

誰に言われようと可能性の問題です。不幸と云う文脈でなど、語られたくありません。

最愛の人間を孤独にさせる苦しみを味あわせる可能性が低いこと、有難く思っています。

残された余生が一人ならば、私は携帯小説をあまた書いて過ごすことでしょう。

あなたとの日々を振り返りながら。

その日までどうか、笑って楽しく、過ごしましょう。みみっちい喧嘩もいっぱいしましょう。

私のような人間と出会えたことも、あなたにとって人生最大の幸福なのですよ。

時には口に出して言いましょうか。

あなたを愛しています。

照れ臭いのでこの辺りで筆を置かせて頂きます。

おからだご自愛下さい、ゲームはほどほどに。

草々

平成二十二年五月二十九日 妻、ましろ

追伸。たまには台所に立つべし。料理の腕が落ちますぞ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0021s/>

恋文

2011年3月28日19時40分発行